

北海道旭川工業高等学校

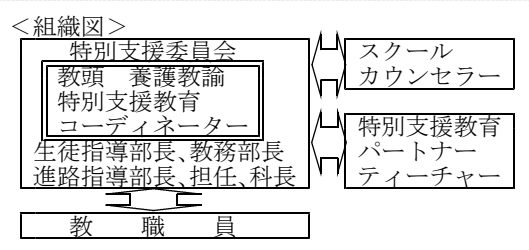
課 程 定時制
学 科 工業科
生徒数 86名

1 取組の特徴

1年生を中心に集団カウンセリングを実施し、より良い人間関係を形成する力やコミュニケーションスキルの育成と向上を図り、いじめや中途退学の未然防止に取り組む。

2 取組のねらい

中学校時代のいじめや不登校、学業不振など、人間関係や学校生活に多くの課題や困難を抱えて入学するため、低学年の中途退学者が多い。こうした生徒に、ソーシャル・スキル・トレーニングやピア・サポートなどの集団カウンセリングを行うことで、コミュニケーションスキルの育成と向上を図り、より良い集団づくりを行う。また、学校生活不適應の解消を図りながら、中途退学者の減少に努める。



3 取組の経過

- | | |
|---|--|
| <p>4月 特別支援委員会①、②
生徒実態把握調査</p> <p>5月 個別カウンセリング①、②、③
特別支援委員会③
アセス(1回目)</p> <p>6月 個別カウンセリング④、⑤
教科担任連絡会
特別支援委員会④</p> <p>7月 個別カウンセリング⑥
集団カウンセリング授業①</p> <p>8月 集団カウンセリング授業②</p> | <p>9月 特別支援委員会⑤
個別カウンセリング⑦、⑧
アセス(2回目)</p> <p>10月 集団カウンセリング授業③、④
個別カウンセリング⑨
DV防止教室</p> <p>11月 個別カウンセリング⑩
特別支援委員会⑥</p> <p>12月 個別カウンセリング⑪
1月 個別カウンセリング⑫
アセス(3回目)</p> |
|---|--|

4 取組の内容

- 1 集団カウンセリング授業①(1年)
 - (1) 日 時：平成26年7月23日(水)
 - (2) テーマ：クラスで出会った仲間と楽しく過ごす
 - (3) 会 場：本校会議室
 - (4) 講 師：安達 潤先生(道教育大旭川校教授)
ゼミ学生4名

- 2 集団カウンセリング授業②(1年)
 - (1) 日 時：平成26年8月20日(水)
 - (2) テーマ：クラスの仲間を知ろう
 - (3) 会 場：本校会議室
 - (4) 講 師：安達 潤先生(道教育大旭川校教授)
ゼミ学生4名



7月23日(水)

4 取組の内容

- 3 集団カウンセリング活動③(1年)
 - (1) 日 時：平成26年10月9日(木)
 - (2) テーマ：コミュニケーション・トレーニング
 - (3) 会 場：ネイパル深川、多目的ホール
 - (4) 講 師：池川 卓也指導員(ネイパル深川)

- 4 集団カウンセリング授業④(1年)
 - (1) 日 時：平成26年10月29日(金)
 - (2) テーマ：将来を考える 仕事を考える
 - (3) 会 場：本校会議室
 - (4) 講 師：安達 潤先生(道教育大旭川校教授)
ゼミ学生4名

- 5 アセスの実施
 - (1) 1回目 平成26年5月16日(金)
 - (2) 2回目 平成26年9月18日(金)
 - (3) 3回目 平成27年1月23日(金)

- 6 ピア・サポート授業(2年)
 - (1) 日 時：平成26年10月24日(金)
 - (2) テーマ：DV防止教室
 - (3) 会 場：本校会議室
 - (4) ファシリテーター：旭川医大Med-Edu 9名



10月9日(木)



10月29日(金)



10月24日(金)

5 次年度に向けて

1 成果

- ア 中途退学者数及び不登校生徒数の推移
 - ・中途退学者が、平成24年度19名、平成25年度12名、平成26年度5名と着実に減少し成果が現れている。
- イ その他の指標による評価
 - ・就職内定率が12月で100%となり、在学生の有職率も70%を超え、キャリア教育や就労支援にも大きな成果が見られた。
- ウ 子ども理解支援ツール「ほっと」実施により把握した生徒のコミュニケーションスキルの概況
 - ・アセスを全学年で年間3回実施し、「個人特性票」と「学級内分布票」を全学級で作成することができた。特に1年生は、集団カウンセリング授業の実施前と実施中、実施後を系統的に読み取ることができた。
- エ 生徒の変容した姿
 - ・スクール・カウンセラーや教育大学生、医科大学生や本校教職員が積極的に集団カウンセリング授業にかかわる中で、心を開く生徒が徐々に増えてきた。
 - ・様々なアイスブレイクに取り組む中で生徒の興味・関心が高まり、真剣に取り組む生徒が増え、協調性や表現力も生まれてきた。

2 課題

- ア 新入生に対する入学当初からの集団カウンセリング授業の実施
- イ 教職員による集団カウンセリング授業の実施

3 次年度に向けて

- ア 新入生に対して、6月に集団カウンセリング授業を計画する
- イ 教職員が集団カウンセリング授業を行えるように研修の機会を設ける
- ア 中途退学者の更なる減少に向けた取組を行う

北海道枝幸高等学校

課程 全日制
 学科 普通科
 生徒数 155名

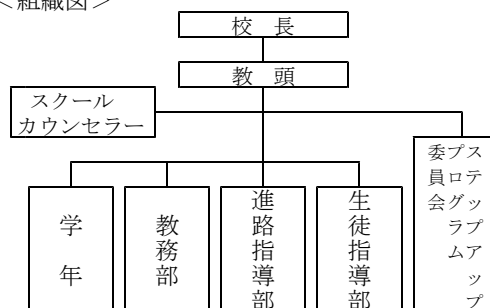
1 取組の特徴

本校ではピア・サポートトレーニングを通して、生徒がより良いコミュニケーション能力を獲得し、望ましい人間関係を醸成していくことを目指している。また、教員集団が集団カウンセリングの手法等を習得し、予防的・開発的教育相談を充実させることを目指している。

2 取組のねらい

- 1 ピア・サポート活動の実践
- 2 構成的グループエンカウンターやアサーショントレーニングを活用したピア・サポートトレーニングの実施
- 3 教職員研修を通して、ピア・サポートトレーナーとしての資質向上

<組織図>



3 取組の経過

- | | |
|--|--|
| <p>4月 ・ピア・サポート研修 (校内研修会)
 ・1年ピア・サポートトレーニング①②
 ・子ども理解支援ツール「ほっと」実施</p> <p>5月 ・1年ピア・サポートトレーニング③
 ・2年ピア・サポートトレーニング①
 ・子ども理解支援ツール「ほっと」実施</p> <p>6月 ・1年ピア・サポートトレーニング④
 ・2年ピア・サポートトレーニング②
 ・子ども理解支援ツール「ほっと」実施</p> | <p>9月 ・1年宿泊研修でのピア・サポートトレーニング (大雪青少年交流の家)</p> <p>10月 ・1年ピア・サポートトレーニング⑤
 ・子ども理解支援ツール「ほっと」実施</p> <p>12月 ・1年ピア・サポートトレーニング⑥
 ・スクールカウンセラーによる校内研修
 講師：古川碧氏 (稚内北星学園大学)
 ・子ども理解支援ツール「ほっと」及び
 学級適応感調査「ASSESS(アセス)」実施</p> |
|--|--|

4 取組の内容

1 教育相談のスキル向上を図る校内研修

- (1) 日時 ① 平成26年4月4日 (金)
 ② 平成26年12月3日 (水)
- (2) 対象 全教職員
- (3) 内容 ① 本校が実施するステップアッププログラムの目的と意義についての周知を図るため、演習等の体験活動を通して実施内容の理解を深めた。



【教育相談の演習】

- ② 上級カウンセラーの古川碧氏を招いて「教育相談のスキル向上について」というテーマで講義と演習を行い、教員のスキルアップを図った。

2 1年ピア・サポートトレーニング

- (1) ねらい 高校での新しい人間関係を構築しやすくなるように、生徒たちが互いの悩みを受け止め支援・解決する力を身に付ける。
- (2) 対象 1学年 60名
- (3) 日時 ①平成26年4月10日(木) 2校時
②平成26年4月11日(金) 4～5校時
③平成26年5月19日(月) 5～6校時
④平成26年6月11日(水) 3～4校時
⑤平成26年10月22日(水) 5～6校時
⑥平成26年12月3日(水) 5～6校時 *講師：古川碧氏

(4) 内容

《1コマあたりの基本授業構成》 (1コマ50分)

ア 導入・ウォーミングアップ (10分程度) …アイスブレイクや概要の説明など
イ 主活動 (30分程度) …エクササイズや演習など
ウ 振り返り (10分程度) …感想とそのシェアリング

- アイスブレイク (アドジャン、ひたすらジャンケン等)
- ピア・サポート活動の概論
- 高校における新たなグループの構築 (バースデーチェーン、足し算トーク等)
- 上手な話の聞き方 (一方通行と相互通行のコミュニケーション、FELORモデル等)
- 積極的傾聴 (オープンクエスチョンとクローズドクエスチョン、心の風景等)
- 思いやりの心の表現 (アサーティブトレーニング、コンプリメントシャワー等)
- 合意形成トレーニング (危機からの脱出、KJ法の活用等)
- ピアサポート力の向上を目指して (勇気ある自己表現等)
- 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施



【上手な話の聞き方の演習】

3 2年ピア・サポートトレーニング

- (1) ねらい 前年度で学んだピア・サポートの手法を使い、さらに生徒たちが互いに支え合って問題を解決する力を高める。
- (2) 対象 2学年 39名
- (3) 日時 ①平成26年5月20日(火) 3～4校時
②平成26年6月13日(金) 5～6校時

(4) 内容

《1コマあたりの基本授業構成》 (1コマ100分)

ア 導入・ウォーミングアップ (10分程度) …アイスブレイクや概要の説明など
イ 主活動 (80分程度) …エクササイズや演習など
ウ 振り返り (10分程度) …感想とそのシェアリング

- 前年度の振り返りとピア・サポート活動の概論
- 課題解決の方法 (ブレインストーミング、紙上相談、エゴグラム等)
- 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施

4 宿泊研修でのピア・サポートトレーニング

- (1) ねらい 研修を通して、自主性を高めるとともに、相互の親睦交流を深める。
- (2) 対象 1学年宿泊研修参加者 48名
- (3) 日時 平成26年9月11日（木）
- (4) 場所 大雪青少年交流の家（北海道上川郡美瑛町白金温泉）
- (5) 内容 ●アイスブレイク
●コミュニケーショントレーニング

5 振り返りシートの記入と子ども理解支援ツール「ほっと」の実施

- (1) ねらい ピア・サポートトレーニングを経て、生徒たちの変容を見るために、毎時振り返りシートを記入させ、「ほっと」を複数回実施する。
- (2) 成果 ピア・サポートトレーニングの成果を、生徒の感想だけでなく、「ほっと」の結果分析をとおして把握することにより、生徒の社会的スキルの変容を把握することができた。
- (3) 生徒の感想（一部抜粋）
 - 人と話すのが苦手だけど、楽しく活動できた。分からない相手と話ができて良かった。（1年女子）
 - みんな緊張していたけれども楽しく活動でき、少しでも1年生の中で距離が縮まったと思う。（1年男子）
 - 班のみんなが解決策を考えることによって自分では思いつかないような斬新なアイデアがでてきてより適切な解決策を出すことができた。（2年男子）

5 次年度に向けて

1 成果

- (1) 中途退学者数及び不登校生徒数の推移
前年度と同様、中途退学者及び不登校生徒ともに少ない。
- (2) その他の指標による評価
振り返りシートの感想から、ピア・サポートトレーニングを通して他者との関わり方について学ぶきっかけになった生徒が多かった。
- (3) 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施により把握した生徒のコミュニケーションスキルの概況
 - 1学年…全体を通してどの因子得点も道内平均並みであることから、社会的スキルがバランスよく身に付いている。経時比較すると、「援助要請因子」の得点が大幅に向上しており、悩みを一人で抱え込まず、他者に打ち明けて相談していこうとする習慣が徐々に身に付いている。13要素別の得点では「学業」の得点が飛躍的に向上しており、学習面で自ら進んで友人や先生に質問して解決する姿勢が備わってきた。
 - 2学年…全体を通してどの因子得点も道内平均以上で高い傾向にあることから、人間関係形成・社会形成能力や自己理解・自己管理能力などが身に付いている生徒が多い。また、他者の多様な考えや立場を理解し、相手の意見を聞いて自分の考えを正確に伝えることができる傾向が見られるようになった。
 - 3学年…全体を通してどの因子得点も道内平均以上で高い傾向にあり、「関係維持因子」と「援助要請因子」が道内平均を大幅に上回っていることから、自分自身の悩みや困ったことを打ち明け相談することができる生徒が多い。

(4) 生徒の変容した姿

「ほっと」の分析から、本校の実態に即したピア・サポートトレーニングの実施によって、学年が進むにつれて社会的スキルを獲得していることが明らかになった。集団の中で自分の意見を言うことが苦手な生徒も、友人の中でコミュニケーションを上手に取ることができるようになっている。また、授業の中でも、グループワークを通して友達と意見交換することに慣れてきた様子が見えた。

2 課題

- (1) ピア・サポートトレーナーとしての知識と経験を持つ教員をさらに増やし、教員の知識の共有化とスキルアップを図る必要がある。
- (2) トレーニングの実施だけでなく、生徒がより積極的に「ピア・サポート活動」に関わる取り組みとなるよう工夫する必要がある。

3 次年度に向けて

- (1) ピア・サポートトレーニングの運営をステップアッププログラム委員会から、分掌の業務として位置づけ、より計画的で継続的な活動となるように検討する。
- (2) 校内研修をさらに充実させ、教員のスキルアップを図るとともに、生徒会活動などを通してピア・サポーターを増やす取り組みを検討する。

北海道利尻高等学校

課 程 全 日 制
 学 科 普通科 商業科
 生徒数 93名

1 取組の特徴

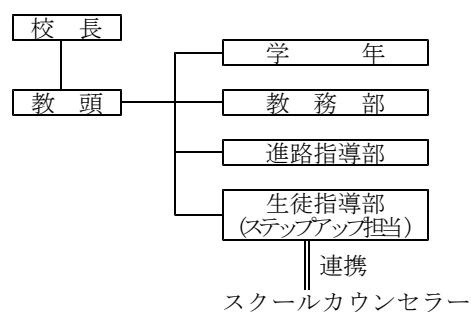
- ・子ども理解支援ツール「ほっと」により生徒の課題を把握し、ピアサポートトレーニングを実施する。
- ・生徒による地域行事への参加などボランティア活動の推進により、人間関係形成能力やコミュニケーション能力を高める。
- ・外部講師を活用した校内研修により、教員のカウンセリング能力の向上を図る。

2 取組のねらい

島という限られた環境のため、生徒は幼少期から変わらない人間関係のまま中学校から高校へ進学している。高校でもクラス替えがないため、生徒の固定化した人間関係を大きく変えることが極めて難しい状況である。

また、ここ数年でコミュニケーション能力が十分でないために固定化された人間関係の中で悩みを抱える生徒が増えてきている。そのため、生徒自身がより良い人間関係を築く力を身に付けるとともに、教員による教育相談を充実させるため、本事業に取り組んでいる。

<組織図>



3 取組の経過

- | | |
|---|---|
| <p>6月 宿泊研修において集団カウンセリングを実施 (1学年)</p> <p>7月 ピアサポート活動の概論説明 (1学年)
「ほっと」①の実施 (1学年)</p> <p>9月 スクールカウンセラー活用事業における外部講師を招いた校内研修① (教職員)</p> <p>10月 スクールカウンセラー活用事業における外部講師を招いた校内研修② (教職員)
ピアサポートトレーニング① (1学年)
「ほっと」②の実施 (1学年)</p> | <p>11月 保育所ゆうぎ会ボランティア (有志生徒)
利尻町チャリティー祭ボランティア (有志生徒)</p> <p>1月 チャレンジ教室ボランティア (有志生徒)</p> <p>2月 ピアサポートトレーニング② (1学年)
「ほっと」③の実施 (1学年)</p> <p>3月 学校プログラムの作成 (教職員)</p> |
|---|---|

4 取組の内容

1 宿泊研修における集団カウンセリング（1学年）

6月に実施した宿泊研修のプログラムの中で、集団カウンセリングを実施し、生徒の相互理解を深め、ホームルームや学年における良好な人間関係の構築を図った。



【宿泊研修における集団カウンセリング】

2 「ほっと」の実施及びピアサポートトレーニング（1学年）

7月・10月・2月の3回、「ほっと」を実施し、その分析結果をもとに、生徒とホームルームの状況理解に努めた。また、10月と2月に「ほっと」を実施する前に、各クラスで1時間のピアサポートトレーニングを行った。

3 地域行事におけるボランティア活動（有志生徒）

11月から1月にかけて利尻島で行われている各種の地域行事に、生徒会を中心とした有志生徒がサポート役として参加した。幅広い世代と接することにより、人間関係形成能力やコミュニケーション能力の向上が図れた。

4 外部講師による校内研修（教職員）

9月と10月の2回、スクールカウンセラー古川碧氏（稚内北星大学講師）を招いて校内研修を実施した。ピアサポートの概要説明の後、実際にいくつかのトレーニングを行った。校内研修で実施した内容は、生徒へのピアサポートトレーニングとしてフィードバックした。

5 次年度に向けて

1 成果

(1) 中途退学者数及び不登校生徒数の推移

中途退学者数：平成25年度 0名 → 平成26年度 2名

不登校生徒数：平成25年度 1名 → 平成26年度 0名

(2) その他の指標による評価

全学年における総欠席日数：平成25年度 317日 → 平成26年度 248日
特に、1年の一人あたりの欠席日数が前年度に比べ2.26ポイントの減少となった。

(3) 「ほっと」の実施により把握した生徒のコミュニケーションスキルの概況

13要素のうち、「緊張」の偏差値が他の要素に比べて低く、他者からの評価に敏感になっている傾向がある。

(4) 生徒の変容した姿

ピアサポートトレーニングを実施後、生徒が「小さい頃から顔見知りの間柄でも、知らない面があることがわかった」と感想を述べるなど、他者理解を深め、人との関わり方を見直そうとする姿勢が見られた。

2 課題

(1) 生徒が自己理解と他者理解を深め、より良い人間関係を築くコミュニケーション能力をさらに高める必要がある。

(2) 全教員が「ほっと」の活用について理解を深め、学校全体の取組にする必要がある。

3 次年度に向けて

(1) 年間を通して計画的にピアサポートトレーニングを実施し、内容の充実を図る。

(2) 「ほっと」を有効活用し、取組の改善・充実を図る。